

メインスピーカー左



DRD-333DIY 構成

¥75,000 (¥63,000 コントローラ無)

小形サウンドコントローラー (不使用可)
¥12,000



メインアンプ ¥24,000



接続コード一式付属

価格は税送抜き ()はサウンドコントローラ除く価格

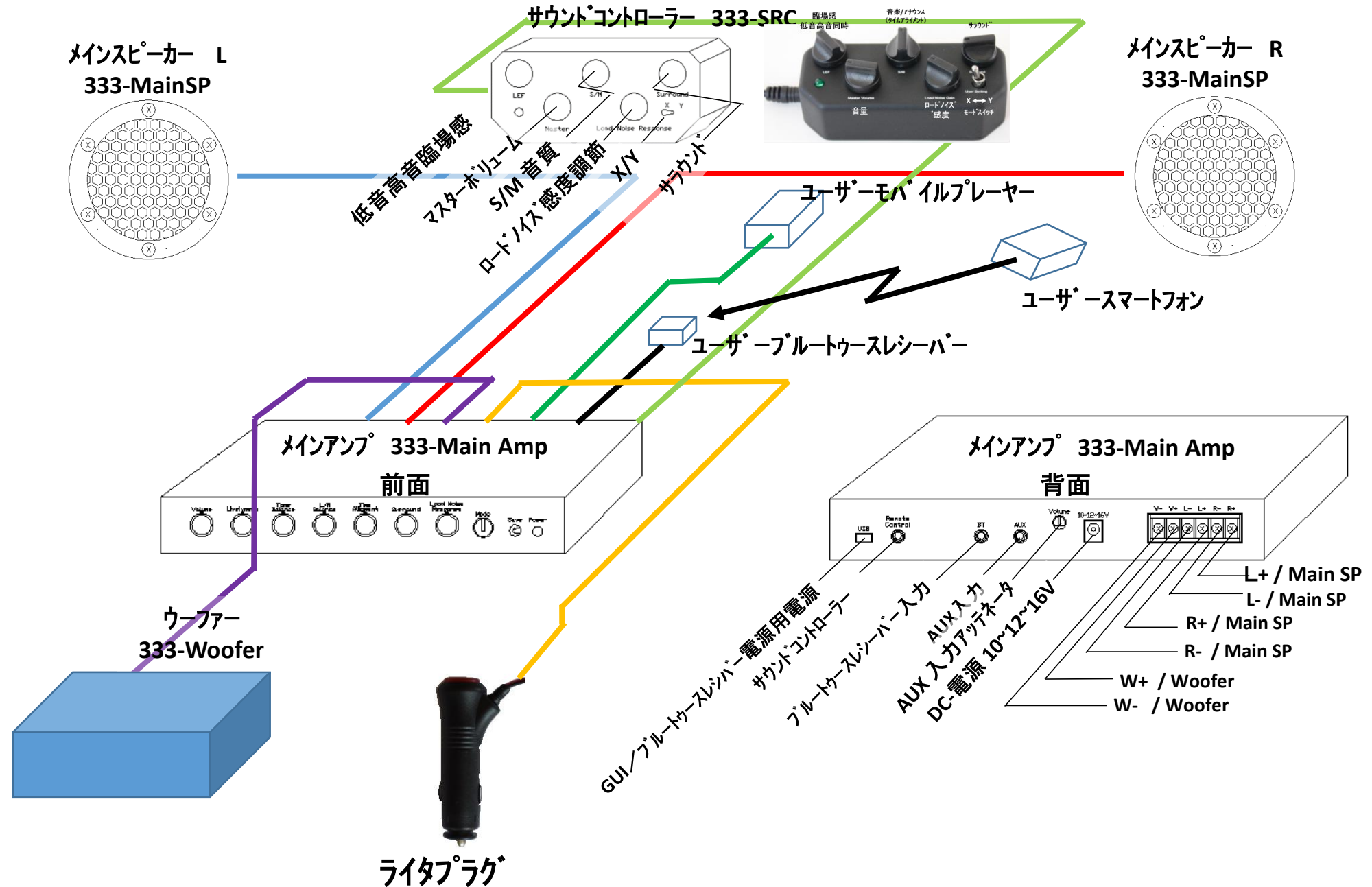
メインスピーカー右
¥21,000 一組



ウーファー
¥18,000



取付簡単モデル DRD-333DIY 構成と接続 (サウンドコントローラ不使用可)



DRD-333DIY 接続コード一覧

シガープラグ 接続コード



BT 接続コードセット



オーディオ 接続コード



使い始めの推奨調節方法について

メインアンプのおすすめ状態



小形サウンドコントローラ



参照ウェブサイト（右QRコード） J-soundsience
問い合わせ先 web_supportsoundsience.co.jp 088-644-2222

サウンドコントローラが接続されると、
サウンドコントローラの臨場感調節は、
メインアンプの低音と高音の両方を制御します。
低音と高音のバランスは
メインアンプ側の低音と高音で設定します。
左右の音量バランスはメインアンプ側が制御します。

ページ案内

メインアンプ推奨ポジション（青色は、サウンドコントローラ接続時には、制御がメインアンプからサウンドコントローラに移行）

音量(白)	低音(赤)	高音(青)	L/Rバランス(白)	S/M 音質（*タイムアライメント）(赤)	サウンド（青）	ロードノイズ感度(赤)	モード選択	モード制御
10時	最大	12時	12時	12時(スピーチ／音楽 自動音質制御) (7時:手動音楽音質), (5時:手動アナウンス音質) タイムアライメント:モード選択を9時とし、モード制御Y(右) 5秒後にタイムアライメント調節モードとなる。モード制御をX(左)に戻すと、タイムアライメントが記憶される。	9時	11時	3時	X側(左)
サウンドコントローラ接続の場合、低音と高音の最大値となります。								

調整手順（青色は、サウンドコントローラ接続時には、制御がメインアンプからサウンドコントローラに移行）

1. 音場	2-1. LRバランス	モノラルアナウンスを再生	前方正面から聴こえるよう L/R を調節
	2-2. タイムアライメント	モノラル アナウンスを再生	モード選択スイッチ:9時、モード制御スイッチ:Y側(右) → 5秒後に減灯 → タイムアライメント調節モード 2-1. 正面方向に音像がシャープに感じるよう、タイムアライメント (S/M と共用) を調節 その後、モード制御スイッチを X側に戻す。モード選択スイッチを 3時に戻す。 → 永久記憶される
2. 音質	3-1. 低音(赤)	録音の良い 楽曲を 小音量で再生	小音量でも、低中高音のバランスを心地よく感じるよう、低音と高音を調節
	3-2. 高音(青)		
3. 音質	サウンドコントローラ接続時	サウンドコントローラからは、LEF(臨場感)調節で、低音と高音を同時に調節。低音と高音のバランスはメインアンプ側で調節	
4. サウンド(青)		好みのサウンド感に調節 (楽曲によって効果に違いがあります)(モノラルに対してサウンド効果はありません)	
5. ロードノイズ感度(赤)		停車中に適度なリスニング音量にセット → 車を走行させ、走行時のロードノイズに対して、最適な音質音量に調節。！運転最優先！ 停止中に効果はありません。慣れないうちは、ロードノイズに対応した 音量音質 が最適であるかどうかの確信が持てません。 特に気にすることなく、停止中に上げてみたり、下げてみたり、その後の走行で確認します。数回の調節で最適になります。	
6. モード制御		X側(左):Dサウンドシャキットの効果(基本音質, 微小音量時の音質, ロードノイズ対応音量音質, アナウンス検出)がオン。Y側(右)はオフ	

16ポジションのモード選択スイッチの割り当て		
ポジション	用途	
●	セカンドオーディオ標準	
●	タイムアライメント調節モード	
●	純正音質改善（セダン用）	
●	純正音質改善（ツーボックス用）	
●	純正音質改善（ワンボックス用）	
●	5秒後にウーファの位相を	出荷状態に記憶
●		反転記憶
その他	ユーザー要望拡張用	

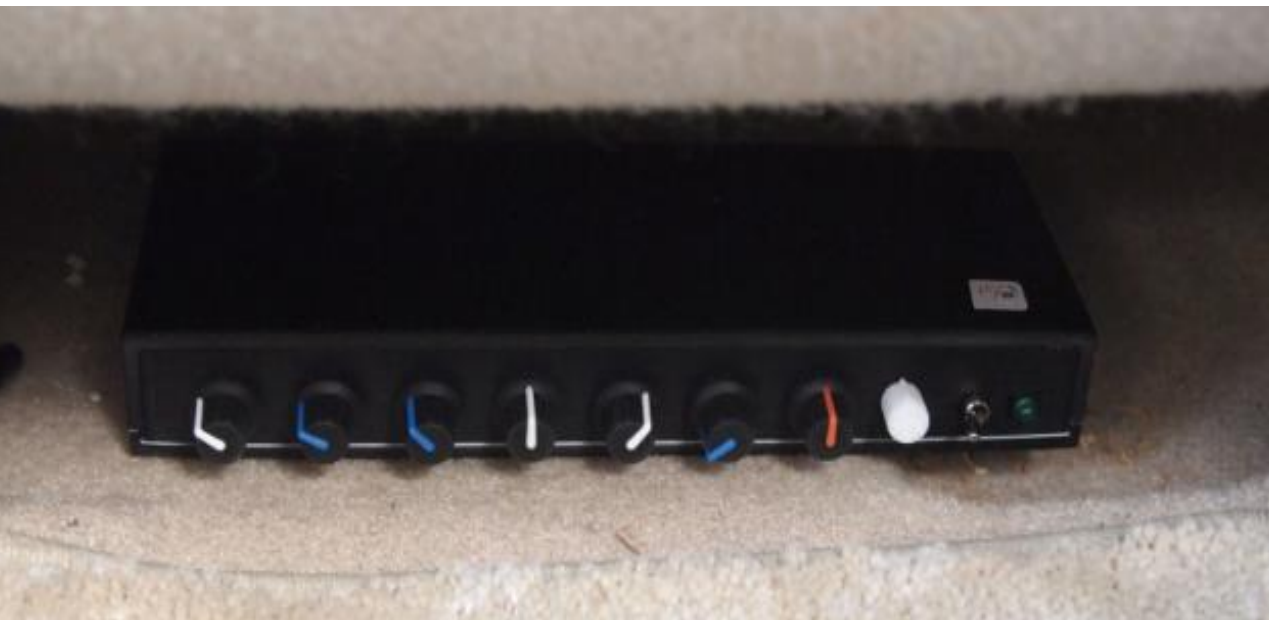
取付操作説明書

取付簡単モデル DRD-333DIY



左右メインスピーカ と サウンドコントローラ 設置状態例

裏面に貼る両面接着テープを二種類用意してあります。
一つは接着力の強いもの（剥がしにくい）
他方は接着力の弱いもの（剥がしやすい）



メインアンプ と ウーファー の設置状態 それぞれ異なる座席下へ設置

隣り合わせると、
メインアンプの中の振動センサがウーハの振動を拾って、
ロードノイズ対応の音質音量制御に影響を及ぼす

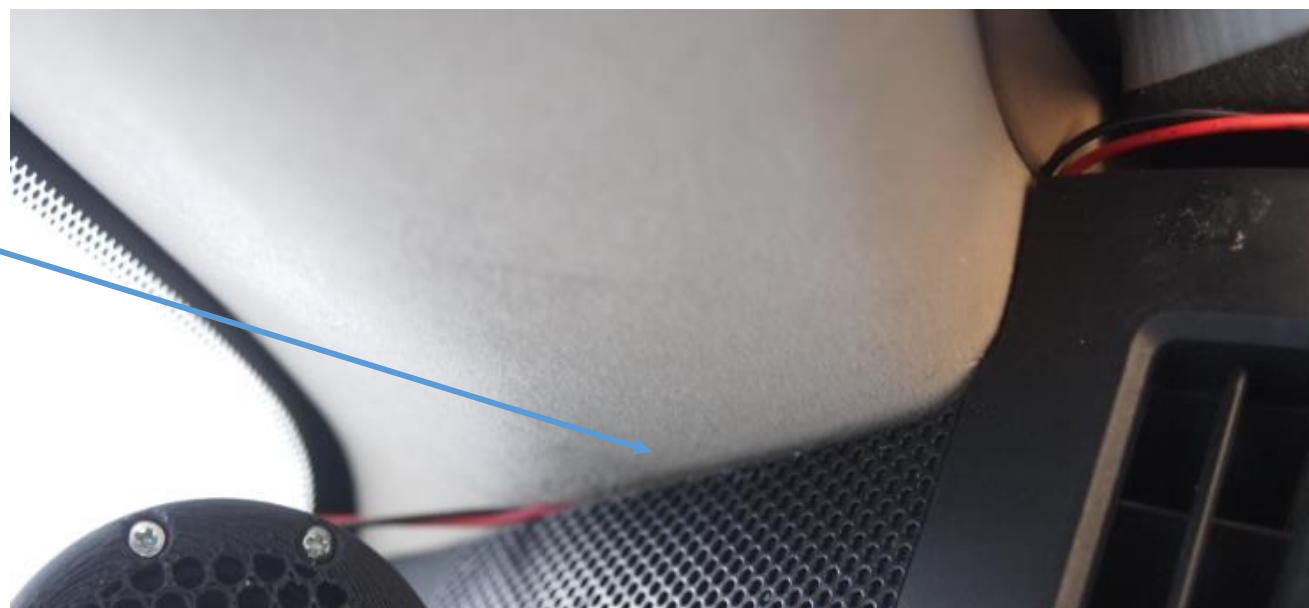


フロントガラスと
ダッシュボード
の隙間

コードは写真のように、
車の構造物の隙間に埋め込む
床マットの下に敷きこむ

窓枠カバーとダッ
シュボードの隙間

用具は付属の竹べらが便利で、作業も簡単です。



ピラーカバーと
ダッシュボード
の隙間



真夏、直射日光下、ダッシュボードはかなり熱い。
メインスピーカ、リモートコントローラ共に、
この温度に耐えるよう設計してありますが、
温度の上昇は低いにこしたことはありません。
サントサイエンスでは、いろいろな方法を試してみました。

- ◆ 効果があって、安価で、簡単な方法は、
アルミ蒸着のシート(百円ショップ)を写真のように、
左右のドアとフレームとの間に挟んで、ドアを閉める、
でした。是非お試しくださいよう。



- ◆ **ダッシュボードの経年変化の保護**
真夏の、パーキング中の、ダッシュボードと **運転席** の温度上昇を大幅抑制
運転席内部のフロントガラス面にアルミ蒸着シートを設けるよりも効果大

- ◆ アルミ蒸着シートは端面から破れやすいので、
全周囲をセロファンテープで補強 すると(テストの結果ですが)ひと夏は耐えられます。

操作説明書 取付簡単モデル DRD-333DIY

1A	メインスピーカー設置	1-1. 左右それぞれのメインスピーカの後面の接続コード（青は左、赤は右）のプラグ を引き出す 1-2. コードはとりあえずは垂れ流しにしておく 1-3. ダッシュボードの左右に エアバックが開く場所を避けて メインスピーカーを取り付ける
2A	サウンドコントローラー設置	2-1. サウンドコントローラのコードはとりあえずは垂れ流しにしておく 2-2. ダッシュボードの上 または 運転席から操作しやすい場所 にサウンドコントローラー を取り付ける
3A	そのほかのユニットの設置場所の決定	3-1. メインアンプ： 座席の下で、ウーファーとは別の座席の下（ウーファーが助手席の下ならメインアンプは運転席の下） 3-2. ウーファー： 座席の下で、メインアンプとは別の座席の下（メインが助手席の下ならウーハファーは運転席の下）
4A	メインスピーカコードの仕舞い込みと接続	4-1. 左右それぞれ、メインアンプのメインスピーカー向けネジターミナルに向けて接続コードを延ばす 4-2. 配線経路で、コードが見えないように、{車の構造物と構造物の隙間にコードを埋め込む} {マットの下に仕舞い込む} 配線経路で、コードが足元や手元にはみ出ることがないように、配線 4-3. 配線の仕舞い込みが終われば、メインスピーカー接続線のターミナル側をメインアンプのネジターミナルに接続 極性に注意 { Lp（青：左メイン+）, Ln（黒：左メインー）}, { Rp（赤：右メイン+）, Rn（黒：右メインー）}
5A	サウンドコントロールコードの仕舞い込みとサウンドコントローラーへの接続	5-1. サウンドコントローラーからメインアンプのRCジャックに向けて接続線を延ばす 5-2. 配線経路で、コードが見えないように、{車の構造物と構造物の隙間にコードを埋め込む} {マットの下に仕舞い込む} 配線経路で、コードが足元や手元にはみ出ることがないように、配線 5-3. 配線の仕舞い込みが終われば、接続線のプラグをメインアンプのジャック RC に差し込む
6A	ウーファーの設置とコードの仕舞い込みとメインアンプへの接続	6-1. ウーファーの底面を上向きに設置 6-2. 接続線をメインアンプのウーファー接続ターミナルに向けて延ばす 6-3. 接続線を配線経路で、コードが見えないように{マットの下に仕舞い込む} 6-4. 接続線の矢型端子を、メインアンプのネジターミナルにねじ止め 極性に注意： { Wp（黄：ウーファー +）, Wn 黒：ウーファー - }

7A	(Bluetoothレシーバーを装着する場合) Bluetoothレシーバーの設置と コードの仕舞い込みとメインアンプへの接続	7-1. Bluetoothレシーバーの { オーディオジャック, USBジャック } に (オーディオコード, USBコード) のプラグを差し込む 7-2. オーディオコードとUSBコードをメインアンプに向けて延ばす 7-3. Bluetoothレシーバーを適当な場所に設置 7-4. Bluetoothの両接続線を、配線経路でコードが見えないように仕舞い込む 配線経路で、コードが足元や手元にはみ出ることがないように、配線 7-5. Bluetoothの両方の接続線のプラグをメインアンプのBTジャックとUSBジャックに差し込む
8A	(Bluetoothレシーバーを装着する場合) プレーヤーのイヤホンジャックから接続	8-1. プレーヤーからメインアンプのライン入力を接続できるよう、オーディオコードを配線 配線経路で、コードが足元や手元にはみ出ることがないように、配線 8-2. プレーヤーからのオーディオコードのプラグをメインアンプのAUXジャックに差し込む
9A		
10A	電源をメインアンプに接続	10-1. ライタープラグ付きの電源コードのメインアンプ側のプラグをメインアンプの電源ジャックに差し込む 10-2. 配線経路に電源コードが目立たないように、電源コードをライターソケット向けに配線 10-3. 電源コードのライタープラグを車のライターソケットに差し込む
11A	メインアンプの仕舞い込み	11-1. 全て配線を接続したメインアンプを座席下へ仕舞い込む

1B	エンジンを起動する前の確認	1B-1. 電源コードがメインアンプからライターソケットへの接続 1B-2. サウンドコントロールコードをメインアンプのRCジャックへ接続 （BTまたはAUXジャックへ接続していないことを確認） 1B-3. メインアンプと小型サウンドコントローラのスナップスイッチが左側
2B	エンジンを起動して電源系統の確認	2B-1. サウンドコントローラの緑ランプが数秒間点滅の後、連続点灯 （点灯しない場合はメインアンプの緑ランプの点灯を確認 → 点灯ならばサウンドコントローラとメインアンプの接続を確認） （メインアンプの緑ランプが点灯していない場合 → 電源コードの接続を確認） 2B-2. スマートフォンの場合、Bluetoothスレーバとの間でペアリングを取る （Bluetoothスレーバのランプが点滅していなければ → USBコードの接続を確認） （ペアリングが取れなければBluetoothスレーバの説明書によるペアリング手順を確認）
3B	（Bluetoothスレーバを装着した場合） Bluetoothによる再生の確認	3B-1. スマートフォンからBluetooth経由で楽曲を再生 → スマートフォンの再生ボリュームを適度に上げる → サウンドコントローラの緑ランプの点灯を確認 → 最も左のツマミを右に廻す （再生中にもかかわらず音が出なければ → Bluetoothスレーバとメインアンプとのオーディオコードの接続を確認）
4B	プレーヤーのイヤホン端子から再生の確認	4B-1. プレーヤーから楽曲を再生 → プレーヤーの再生ボリュームを適度に上げる → サウンドコントローラの緑ランプの点灯を確認 → 最も左のツマミを右に廻す （再生中にもかかわらず音が出なければ → プレーヤーとメインアンプとのオーディオコードの接続を確認）
5B		
6B	操作ツマミの機能確認	6B-1. 各種ボリュームとスイッチの状態の確認（以下、時刻表記は時計の短針の位置に相当） Master Volume: 音量調節, Bass Tone: 低音調節（推奨 10時～11時） * Bass Tone: 低音調節（推奨 10時～11時） * Treble tone: 高音調節（推奨 10時～11時） * * L/R Balance: アナウンスと音楽の音質調整の自動と手動の兼ね合い（中央は自動, 左ほど強制音楽, 右ほど強制アナウンス） （タイムアライメントの設定と共用です） Surround: 音場の左右の広がり感の調節（通常 9時～10時）（モノラルの楽曲には効果はありません） Load Noise Response: ロートノイズ対応音量音質の調節（推奨 11時）（車体、設置条件, 好み によって満足な状態にセット） （注意：運転に支障のない範囲で行ってください。特に、慣れていない間はパーキング中に操作） * * * Mode: 各種設定のための16通りの切り替えスイッチ（通常はポジション3時の位置）, スナップスイッチ: X側（左） タイムアライメント: モノラル信号（ラジオ放送）を再生、ポジションを9時、スナップスイッチをY側（右側）とし、5秒経過後、 S/M のツマミで音の方向調節、スナップスイッチをX側（左）に戻す * : 小型サウンドコントローラの LEF は（メインアンプで設定の Bass, Treble の比率で）低音高音同時可変 となる * * : L/Rバランスは常時メインアンプ側で設定 小形サウンドコントローラ側からの制御はできない * * * : Mode は ロタリスイッチは常時メインアンプ側で設定、小型サウンドコントローラ側からの制御はできない

7B		
8b	パーキング中での音質確認	8B-1. ダイナミックサウンドシャキットのマスターボリュームを10時とする 8B-2. ダイナミックサウンドシャキットの再生音量が適正音量となるよう、純正システムの再生音量を選択 8B-3. その後の再生音量はジュニアサウンドシャキットのマスターボリュームで調節 (ダイナミックサウンドシャキットの再生音が { 歪む、音割れ } ー ー > 純正側音量を下げる) (ダイナミックサウンドシャキットの再生音に { チリチリ、ザザ } とノイズが入る ー ー > 純正側音量を上げる) 8B-4. 純正側で再生したい場合はジュニアサウンドシャキットの音量を絞り、純正側の音量を上げる。
9B	走行中での音量音質確認	9B-1. 停止中、常々聞いている音量にセツ 9B-2. 走行中、最も右のロードノイズ対応音量音質調整ツミで、 走行速度や路面状態によって大きく変化するロードノイズの中で、最適音量音質に調節（その後は固定） 一度設定しても、慣れの度合いによって、さらに自然にしたい、と感じます。その時は再調節します。 何度か試みて最適のポジションを選びます。 (注意: 慣れない間、運転中の音量が気になりますが、運転を最優先にしてください) (注意: 楽曲によって、放送は電波の状態によって、音量が変わります。この場合はマスターボリュームで調節します)
10B	アナウンスと音楽の音質確認	10B-1. S/M Tone のツミを12時とし、楽曲とアナウンスとの再生音質を比べます。 12時の位置はアナウンスと音楽の自動判定による自動音質制御です。 音質を自動ではなく手動選択にしたい場合、 12時から左に廻すほど手動での音楽向きの音質になります。 中間は固定の { 音楽音質またはアナウンス音質 } と自動とを案分します。12時に近いほど自動調節に任せます。 (自動の場合、映画や天気予報など、BGMが入っていると、音楽音質傾向になります。)
11C	各操作ツミの有効的な使い方	11C-1. 各種ボリュームとスイッチの状態の確認（以下、時刻表記は時計の短針の位置に相当） Master Volume: 音量調節, Bass Tone: 低音調節（推奨 10時～11時） * Bass Tone: 低音調節（推奨 10時～11時） * Treble tone: 高音調節（推奨 10時～11時） * * L/R Balance: モノラル信号(ラジオ放送)を再生、音が聞こえてくる方向の調節（通常 10時～12時～2時） S/M Tone: アナウンスと音楽の音質調整の自動と手動の兼ね合い（中央は自動, 左ほど強制音楽, 右ほど強制アナウンス） (タイムアライメントの設定と共用です) Surround: 音場の左右の広がり感の調節（通常 9時～10時）(モノラルの楽曲には効果はありません) Load Noise Response: ロードノイズ対応音量音質の調節（推奨 11時）(車体、設置条件, 好み によって満足な状態にセツ) (注意: 運転に支障のない範囲で行ってください。特に、慣れていない間はパーキング中に操作) * * * Mode: 各種設定のための 16通りの切り替えスイッチ(通常はポジション3時の位置), スナップスイッチ: X側(左) タイムアライメント: モノラル信号(ラジオ放送)を再生、ポジションを9時、スナップスイッチをY側(右側)とし、5秒経過後、 S/M のツミで音の方向調節、スナップスイッチをX側(左)に戻す * : 小型サウンドコントローラの LEF は(メインアンプで設定の Bass, Treble の比率で) 低音高音同時可変 となる * * : L/Rバランスは常時メインアンプ側で設定 小形サウンドコントローラ側からの制御はできない * * * : Mode は ロタリスイッチは常時メインアンプ側で設定、小型サウンドコントローラ側からの制御はできない

ご使用に際して

運転中のリスニングで、

前方から音が聞こえること、

ロードノイズに対応して音量音質が最適状態に自動調節されること、

コントローラの操作ツマミが多いこと、

など、これまでのカーオーディオとは音質の感じ方や操作方法が大きく違います。

数回の運転で慣れますが、

使い始めはくれぐれもご注意くださいまして、運転に集中くださいますよう。

いろいろな楽曲でお試しくださいますよう。

何かと、お気づきの点がありましたら、下記までご連絡くだされば、と存じます。

サウンドサイエンス株式会社

郵便番号 770-8041 徳島市上八万町西山436番地

0886-44-2222

web_support@soundscience.co.jp